

中央講習会東西で開催 講師コース止め、実技面に重点

JCA主催の51年度中央指導者講習会は来る52年1月および2月に東西2箇所において行なわれるが、今年は特に例年の講習会と異なる点は、講師コースを取止めたことである。これは昨年度の講習会に講師コースを受講したものが、東日本会場で9名、西日本会場で21名と予想外に少なく、今年も昨年同様の参加者数とみられるため、思い切って普及指導者の候補者を対象に実技面の指導力のレベルアップに重点をしばって実施することになったものである。

受講希望者は参加料をそえ所属協会へ申込んで下さい。

と き 東日本地区 1月20~23日

西日本地区 2月10~13日

ところ 東会場 C S C 研修センター

西 " 岡山県玉野

参加定員 東西各100名(1協会5名以内)

参加料 2,000円

申込締切 東日本地区 1月10日

西日本 " 1月31日

集 合 両会場とも第1日の12.00~13.00

講習内容(予定)

講義 ㊦普及の社会的意義

" ㊦の現状と指導者の役割

" JCAと地方協会

" サイクリング用車の基礎知識

" 各種㊦スポーツの特長

" サイクリングの健康法

" サイクリスト章について

実習(実技指導上のポイントに重点をおく)

・自転車の点検整備の指導法

・ " 分解組立 "

・三点調整法の指導

・基礎乗車技術のテスト法

実走

・スタンダードライド

研究協議

・指導上の諸問題

・普及上 "

・㊦用車 "

日程

第1日 13.00~21.00(開講式、講義)

第2日 8.30~12.00(講義)

13.00~17.00(実習)

19.00~21.00(研究協議)

第3日 8.30~17.00(講義、実走)

18.00~20.00(情報交換)

第4日 8.30~11.00(講義、実習)

11.10~12.00(全体会議、閉講式)

講師団(予定)

青木泰三(大阪府立大学教授)

長谷川純三(東京教育大学 ")

鳥山新一(JCA常任委員)

清水庸之(")

太宰茂秀(")

山根徳太郎(")

山本貞夫(JCA専門委員)

有吉一泰(")

安全指導の最重点は小、中学生

交通事故は減少、だが自転車は増加

1. 交通事故統計（警察庁調）によると、交通事故総件数は減少したが、自転車事故は次の通り逆に増加している。

区 分	49 年	50 年	増 減 (%)
①全国交通事故発生件数	490,452 件	472,938 件	減 17,514 件 (3.6%)
②うち自転車事故発生件数	71,484 件	74,623 件	増 3,139 件 (4.4%)

2. 自転車事故は何故増加したか？

上記自転車事故の件数は、自転車側に責任のある場合も貰い事故の場合も合併された発生件数で、その内訳は次の通りである。

区 分	50 年	構成比	前年比増減 (%)
(1)自転車が第1当事者の事故件数	14,781 件	20 %	49年より608件 4.0%(減)
(2)自転車が第2当事者の事故件数	59,842 件	80 %	49年より 3,747件 6.7%(増)
自 転 車 交 通 事 故 計	74,623 件	100 %	前年比 3,139件 4.4%(増)

(注) 第1当事者 : 自転車側の過失の重い者、又は相手方と同程度の過失の場合は被害の軽い者
第2当事者 : 自転車側の過失が相手方より軽い者又は過失が同程度の場合は被害が重い者

この表の示すとおり、自転車側に主として責任のある事故は 608 件減ったに拘らず、自転車事故の80%を占める貰い事故等が 3,747 件も増えたため自転車事故は、前年より増加する結果になったものである。

3. 自転車事故の原因別と年齢層別の特徴

自転車側に主として責任のある事故件数とその年齢層別については、49年の統計分析をJCAニュース No. 113 に掲載したが、50年も前年と大差なく、依然として5～14才の小、中学生が年齢層別発生件数の首位を占めている。

自転車事故を防止するための安全指導は、この年齢層を最重点対象とすべきことに変わりはないが、今年から始めたサイクリスト章（5級、4級）の検定、ならびにその応用的活用がこれに大いに役立つものと思われる。

<自転車事故（第1当事者）の統計>

違反項目	発生件数	構成比	年齢層別の第1位、第2位			全体に占める 5～14才の%
			5～9才	10～14才	計	
1. 一時停止違反	2,921件	19.1%	873件	496件	1,369件	50%
2. 安全運転義務違反	2,750	18.6	597	485	1,082	40
3. 右折違反	1,469	9.9	266	247	513	35
4. 信号無視	1,326	9.0	202	192	394	30
5. 優先通行違反	1,213	8.2	371	185	556	46
6. 横断等不相当	1,144	7.8	354	185	539	47
7. 交差点安全通行違反	1,117	7.5	376	194	570	48
8. 右側通行等通行区分違反	781	5.3	167	206	373	48
9. 交差点の徐行違反	553	3.8	269	99	368	66
小計	13,274件	90%	3,475件	2,289件	5,764件	(43%)
10. その他違反 (上記以外の14項目計)	1,507	10%	270	197	467	(31%)
合計	14,781	100%	3,745	2,486	6,231	(42%)

上記の如く9項目の違反件数が全体の90%を占め、その年齢層別では、5～9才が8項目まで第1位、10～14才が1項目（右側通行等）で第1位になっているが、小、中学生が1位、2位を独占していることは49年と変りはない。

<自転車事故（第2当事者）の概要>

貰い事故等が多いこの事故統計の違反項目、年齢層別の内容を見ると、50年の第2当事者事故は、発生件数合計約6万件のうち2万件は該当違反項目なし、または不明、残り4万件の違反項目としては

- ① 安全運転義務違反
- ② 交差点における安全通行違反
- ③ 一時停止違反
- ④ 横断等不相当
- ⑤ 右折違反
- ⑥ 右側通行等

の順位で発生件数が多く、その年齢層別の内訳を見ると、以上6項目とも例外なく第1位は4～9才、第2位は10～14才となっている。

このことから見ても、貰い事故等を防止するために、道路の安全施設整備、ドライバーの教育徹底のほかに、積極的対策として、自転車に乗る小、中学生が事故を回避し得る安全走行技術（注意力の向上、障害物回避、急制動の方法等）を身につけさせる指導が緊要であることを痛感する。

（専務理事 高田精作）

初のJCAリーダーに挑戦

中央研修会に64名が参加

51年度中央指導者研修会は初のJCAリーダーの検定テストを兼ねて11月20～23日の4日間にわたり、修善寺のCSCにおいて開催、全国から最優秀リーダー候補者として検定班31名、研修班33名計64名（申込者数は72名）が参加した。

検定班（31名）はマップリーディングの問題作成（5万の地形図にコースとポストの設定、キーワードと質問をつくる）、実走テスト（スタート、乗車姿勢、走行技術、チェーンジギヤの使い方、ブレーキ停止等3kmコース）、整備技術（丸タイヤ）、ペーパーテスト（知識）、実技テスト（マップリーディング、読図力）、面接1人5～10分間等があり、これに論文を受付時に提出することになっているので大変だ。

開講式から閉講式まで全員がセッケンを常時身につけて行動したので、終始緊張していた感じであった。

これに対し研修班（33名）は来年受検ということもあって割合気楽に勉強していたようである。

なお、JCAリーダーの検定試験合格者は12月中旬に発表される予定。

F・J・C サイクル・レースの普及に サイクリング協会等の協力を要請

日本自転車競技連盟（F・J・C）はかねてからサイクル・スポーツの普及推進策を検討中であったが、このほどサイクル・スポーツ育成指導要領を決定、全国的な活動を展開することになり、JCAならびに地方サイクリング協会にも協力要請があった。

これによると中央にF・J・Cが中心となって日ア車連、全国高体連、JCAから推せんされたメンバーによる委員会を結成するとともに、

各都道府県単位に車連、サイクリング協会、教育委員会、体協、スポーツ少年団等によるサイクル・スポーツ普及活動委員会をつくり、さらにブロック別の地域委員会を結成、底辺人口の拡大等普及推進をはかることになっており、将来は各地域や都道府県の委員会の結成がすすみ、普及活動が定着した段階で、日本サイクルスポーツクラブや各県のクラブとして組織変えをする構想である。

事業内容は下記の通りサイクレースの普及が主体であるが、所定の手続を終ればF・J・Cから地域委員会に助成金（約8万円）が交付される。

- A サイクル・スポーツテストの実施
- B サイクル・スピードコンテスト "
- C 競技者への誘導、指導、強化
- D サイクル・レース記録会の開催
- E サイクル・スポーツ・デー "
- F " " ミーティング "
- G " " クラブの育成
- H " " 少年団の "
- I その他サイク・スポーツ振興に関する事業

最近若いサイクリスト層の間にサイクル・スポーツに対する関心をもつ人たちが増大していることもあり、各地方協会は関係団体より要請があった場合は現地の実情に即して協力していただきたい。

神奈川県協会創立20周年 盛大な記念式典

○…今年で創立20周年を迎えた神奈川県協会は去る11月7日18時から、横浜市のホテルリッチ7階武蔵の間に関係者180名が出席して盛大な記念式典を行なった。

当日は地元協会の関係役員はもちろん、JCA高田専務理事はじめ各常任委員、関東各県サイクリング協会代表者等多くの人たちから祝辞や激励の言葉が述べられ、今後の発展と活躍を期し、20時解散した。